

IYEO チャレンジ・ファンド報告書

実行団体: 第 48 回「東南アジア青年の船」事後活動実行委員会

事業名 : Mini SSEAYP

1. 本活動の目的

本事業「Mini SSEAYP」は、第 48 回「東南アジア青年の船(SSEAYP)」事業の日本参加青年が、事業で得た学びを高校生以下の次世代へ還元し、①異文化理解を促進すること、②心理的安全性の高い場づくりを体験的に学ぶこと、の2点を柱として実施しました。

これにより、参加生徒が国際化する日本において「違いを尊重し、安心して意見を交わせる」態度・スキルを身につける契機を提供し、ファンドの趣旨に合致した次世代の国際的視野の醸成と実践機会の創出という社会的価値を生み出すことを狙いとしました。

2. 活動内容

概要

実施日時 : 2025 年 9 月 6 日(土)11:00–15:30

実施場所 : 高知市立高知商業高等学校

対象/参加数 : 同校1年生～3年生で構成される生徒 39 名

主催 : 第 48 回「東南アジア青年の船」事後活動実行委員会

共催 : 日本青年国際交流機構(IYEO)

運営体制 : 第 48 回「東南アジア青年の船」事後活動実行委員会 21 名(当日現地参加: 11 名)

プログラム

内容	詳細
オープニング	第 48 回「東南アジア青年の船」事後活動実行委員会ナショナルリーダーの挨拶
実行委員会からの自己紹介	各自の自己紹介/SSEAYP/IYEO についての説明
自己紹介ゲーム 「私は何者？」	教室中を歩き回り、時間内に多くの人と自己紹介を行う。
映像×クイズ 「私の出身は？」	海外青年の動画・現地映像から国や文化背景を推理しながら東南アジア各国を紹介する。
食の体験(ランチ)	海外料理(タイ料理)を通じて文化の多様性を味覚で味わう。
エナジャイズ 「Aschock ゲーム」	初対面でも理解しやすいマレーシアのゲームで心理的安全性の土台をつくる。

文化体験コーナー	民族衣装に関するクイズと衣装着用によるファッションショーを実施 する。
ASEAN セミナー	下記の議題をグループに分かれて、海外での施策/アイデアから今後の日本と高知県を考える。

	(1)「ASEAN と日本の魅力って？」 (2)「ASEAN と日本のサステナビリティな経済発展について考えよう」 (3)「ASEAN と日本の環境政策を比較してみよう」 (4)「ASEAN と日本の防災政策について、身近で地震が起きたことを 想定して例に考えてみよう」 (5)「ASEAN と日本のデジタルを比較して、身近な問題を解決出来ない か考えよう」
クロージング	担当の先生からのお言葉と振り返り

3. 結果報告

当日の様子

	
冒頭あいさつ/メンバーによる紹介	SSEAYP/IYEO の紹介
	
自己紹介ゲーム「私は何者？」	映像×クイズ「私の出身は？」

	
ランチ(タイ料理)	エナジャイズ「Aschock ゲーム」
	
ファッションショー - 民族衣装の試着	ASEAN セミナー(資料作成)
	
ASEAN セミナー(発表)	全体撮影

4. 成果(アンケートによる事前・事後の変化、先生方からの声)

アンケートの目的:対象者にとって、当方の PPA の目的である①異文化理解を促進すること、②心理的安全性の高い場づくりを体験的に学ぶことに資するプログラムであったかを把握するため。アンケート対象: 39 名(有効回答:事前 37 名、事後 35 名)

年齢分布

15 歳:5 名
16 歳:15 名
17 歳:7 名

18 歳: 10 名

アンケート項目:

事前アンケート	
1	自分が工夫すれば、グループの中に「安心して意見を言える雰囲気」を作れると思いますか。それはどんな工夫ですか。
2	グループ活動の時に自分の意見をすすんで言うことに抵抗はどのくらいありますか。その理由は何ですか。
3	普段の生活の中で日本以外の文化について触れる機会はあるどのようなシチュエーションが考えられますか。
4	日本と海外の文化の「違い」を知ることは大切だと思いますか。その理由は何ですか。
5	文化の違いを知ることは「面白い」と感じますか、それとも「不安」に思えますか。その理由は何ですか。
6	「異文化」と「海外文化」の違いを意識したことはありますか。その理由は何ですか。

事後アンケート	
1	今回のイベントに参加してみての感想を教えてください。
2	(今回の活動を踏まえて) 普段の生活の中で日本以外の文化について触れる機会はあるどのようなシチュエーションが考えられますか。
3	(今回の活動を踏まえて) 日本と海外の文化の「違い」を知ることは大切だと思いますか。その理由は何ですか。
4	(今回の活動を踏まえて) 文化の違いを知ることは「面白い」と感じますか、それとも「不安」に思えますか。その理由は何ですか。
5	(今回の活動を踏まえて) グループ活動の時に自分の意見をすすんで言うことに抵抗はどのくらいありますか。その理由は何ですか。
6	(今回の活動を踏まえて) 失敗や間違いをしても安心して発言できる雰囲気に必要なことは何だと思いますか。その理由は何ですか。
7	今回の活動を通じて「異文化理解」に対する考え方は変わりましたか。変わった場合それはどんな変化ですか。
8	「心理的安全性」を高めるために有効だと思った行動や工夫を教えてください。

9	今日の活動で特に印象に残ったことを教えてください。
10	今後さらに学びたいこと・やってみたい活動があれば教えてください。
11	今回のイベントの満足度を教えてください。

アンケート結果：

<総合>

対象者による満足度評価は 事後回答者 35 名中 34 名が 5 点(最高点)、残り 1 名も 4 点と極めて高い結果となった。

<異文化理解の促進>

プログラム実施前の回答と比べ、異文化に対する関心を高めたという回答が増加した。また、今回の活動を通じて『異文化理解』に対する考えが変わったと回答した対象が 27 名/35 名 であり、「異文化＝海外」から「身近な違いも含む」へ認識が拡張したことに言及する回答もあった(10 名)。

また対象者の回答からは「知識として理解」から「体験して楽しみながら学ぶ」ことへの理解の方法の変化について言及する回答もあった。

<心理的安全性の高い場づくりを体験的に学ぶ>

プログラム実施前の回答と比べ、心理的安全性が「概念的理解」から「具体的に自分がどう行動すればよいか」という実践的理解を記載する内容が増えた。

また、グループ活動で発言することに「抵抗がない」と答えた人の割合は事前回答 3 割(11 名/37 名)から事後回答 4 割(15 名/35 名)に増加していた。

回答内容も「心理的安全性を高める工夫」として「話を振る」「ファシリテーター的に動く」「オウム返して確認する」など具体的な行動レベルへと変化した。

まとめ

参加者の満足度は極めて高く、次回以降への参加意欲・継続意欲も多数確認された。異文化理解については「楽しさ」を伴いながら認識を拡大し、参加前より前向きな姿勢へと変容していた。

心理的安全性については「安心できる雰囲気」を体験的に学び、具体的な実践方法を言語化できるようになっていたことから、プログラムの中に実施した心理的安全性の構築の過程が対象者の中で理解に昇華されていることが伺えた。

生徒からのコメント(抜粋)：

<異文化理解>

生徒「東南アジアは一括りにして考えがちだが、実際は国ごとに大きな違いがあることに気づいた。特に民族衣装・素材・気候や風土との関係に驚いた。」

生徒「海外に関わる経験がなくても興味を持っていたので、今回の経験が進路の参考になった」

<心理的安全性の構築>

生徒「ディスカッションのファシリテーションを参考にしたい。」

生徒「今後は、異文化に対する理解を深めるだけでなく、自分の考えを相手にわかりやすく伝える方法や、多様な価値観を尊重し合えるコミュニケーションの仕方をさらに学びたい。」生徒「(ASEAN セミナーでの参加青年のように)一人ひとりにフィードバックを返してあげたり、まとめ方についてアドバイスをくれたりすることで、迷いなく生徒のみんなが行動できたと笑顔が生まれる環境にすることができることを学んだ。」

先生方の声(アンケート結果より)

大井 先生

「本活動を通して、東南アジア青年の船の取り組みを知り、同じ日本人として誇りを感じるとともに、生徒へわかりやすく伝えていただきましたことに心より感謝と敬意を表します。本校の生徒の中からも、皆さまのように世界をフィールドに活躍する人材を育てたいと強く感じました。今後も交流を深め、活動のご活躍を心から願っております。また、本校の設備等でご迷惑をおかけした点は反省しておりますが、今回のプログラムを通じて「全校生徒や地域住民も対象にすれば良かった」との思いが生まれました。今後はより広く活動を届けられる機会を設けられれば幸いです。これからも交流を継続できることを楽しみにしております。いつでも高知県で皆さまをお待ちしております。」

紙 先生

「このたびは、このように素晴らしく貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。日本代表青年の皆さまと直接対話し、プログラムや船でのご経験を伺うことができ、参加した生徒にとっても、私たち教員にとっても大変貴重な学びの場となりました。今回を通じて、生徒は世界とつながるための多様な選択肢を知ることができました。このような国際交流の場は、将来の外交や地域・世界で活躍する人材を育むものだと感じております。プログラムの流れやディスカッションもとても良く、青年の皆さんが生徒一人ひとりの意見を丁寧に引き出してくださいました。その結果、高校

生はさらに発表の質を高められると感じました。今後も継続的な機会の提供を心より願っております。」

片岡 先生

「この度は高知商業を舞台とし、プログラムを実施していただき本当にありがとうございました。みなさまが活動前から内容や生徒への配慮含めて多方面においてご尽力いただいたことで、無事に終わることができました。内容に関しましても、楽しさ・学び・食・コミュニケーション・協働など、生徒が成長できる要素をたくさん含めていただき感謝しております。東南アジアの衣食住を心技体すべてで感じられる実りある4時間となりました。教員としても多くの学びがあり、生徒・教員・青年それぞれにとって「win」となる場になったと実感しております。今後も高知商業と東ア船のつながりを強固なものにしていきたいと考えております。」

5. 課題・改善

時間配分

- (1) 事前アンケートの項目数が多く、時間がかかった。学校に事前配布して回答を集める方法も検討できる。
- (2) 全体のコンテンツ量が多く、時間に対してタイトだった。
- (3) ディスカッションや感想共有の時間を十分に確保できるように調整が必要。ディス

カッション運営

(1) テーマが「東南アジア」に限定されると難しく感じる生徒もいた。テーマ設定を柔軟にし、議論しやすい工夫が必要。

(2) 少人数グループで感想を共有する機会を設けると、生徒が自分の意見を言語化しやすい。

6. おわりに

本事業は第 48 回「東南アジア青年の船」の参加青年による事後活動の一環として、「本事業の目的」記載の目的の通り実施し、地域の高校生が国際社会に必要な素養を自覚・体験・理解するきっかけづくりとして、着実な成果を上げました。当日の運営には日本青年 11 名が参画し、高知商業高等学校・IYEO・関係各位のご協力により安全かつ円滑に実施できました。ここに深く感謝申し上げます。本事業をきっかけとして、今後も持続可能的に全国各地で第二弾、第三弾と実施していきたいと考えております。次回以降は、「課題・改善」の記載の点の改善を図りつつ、連携の拡大を視野に入れ、継続的な展開を目指します。

7. 謝辞

このたび本事業開催にあたり様々な関係者の方よりアドバイスと支援をいただきました。特にまだ実績もない弊社に対して資金支援をいただいたでーち様、川島菜穂様、藤本寛太様、今井海翔様、井本亜希様、大野浩史様ならびにその他ご支援いただいた方々に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

以上